

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成28年4月19日(火) 11:00～12:00

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

発表事項

1. 山形大学学部・研究科改組の構想について
2. 新地上絵の発見
3. AMSで真室川町指定有形文化財木造薬師如来坐像の制作年代と修理歴を実証
4. 人文学部と(株)モンテディオ山形の連携による課題解決型学習(PBL)の試行について
5. 農学部が鶴岡市と共同で地域定住農業者育成プロジェクト事業を開始

お知らせ

1. 小学生を対象に新企画「めざせ！スライムマイスターJr.」を実施します
2. 幕田寿典准教授の文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞が決定
3. 公開講座「小説を書こう」受講者を募集します
4. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成28年5月17日(火)11:00～11:45

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

学長定例記者会見(4月19日)発表者

1. 山形大学学部・研究科改組の構想について

こやま きよひと
小山 清人 学長

2. 新地上絵の発見

人文学部附属ナスカ研究所長 きよづか くにひこ
清塚 邦彦(人文学部長)

学術研究院 さかい まさと
坂井 正人 教授(人文学部担当)

3. AMS で真室川町指定有形文化財木造薬師如来坐像の制作年代と修理歴を実証

学術研究院 とかない ふゆき
門叶 冬樹 教授(理学部担当)

木造彫刻文化財保存修復研究所代表 おかだ やすし
岡田 靖

4. 人文学部と(株)モンテディオ山形の連携による課題解決型学習(PBL)の試行について

株式会社モンテディオ山形 取締役 よこうち たかし
横内 崇

学術研究院 しもだいら ひろゆき
下平 裕之 教授(人文学部担当)

学術研究院 やまもと まさき
山本 匡毅 准教授(人文学部担当)

5. 農学部が鶴岡市と共同で地域定住農業者育成プロジェクト事業を開始

農学部長 はやしだ みつひろ
林田 光祐

学術研究院 おざわ わたる
小沢 互 教授(農学部担当)

平成28年4月19日
山形大学

山形大学学部・研究科改組の構想について

平成29年4月に、5学部（人文学部・地域教育文化学部・理学部・工学部・農学部）及び2研究科（理工学研究科（理学系）・医学系研究科）において、改組を行うことを構想しています。

山形大学は、社会的背景を踏まえ大学が果たすべき役割を自覚して、「地域創生」「次世代形成」及び「多文化共生」を使命として掲げ、自ら策定した中期計画・年度計画を達成するため、教職員一丸となって努力しているところです。

また、一人ひとりの学生にとって最善の教育が提供できるよう、そして社会から必要とされる人材を輩出できるよう、不断の自己改革を行っています。

中でも、改組に関しては、平成28年4月に、有機材料システム研究科を新たに設置したところですが、平成29年4月には、更に、5学部（人文学部・地域教育文化学部・理学部・工学部・農学部）及び2研究科（理工学研究科（理学系）・医学系研究科）で改組を行い、より社会的要請の高い分野への転換を積極的に行うことを構想しています。

なお、学部・研究科改組の概要は、別紙のとおりです。

（お問合せ先）
企画部企画課
電話 （628）4193

山形大学学部・研究科改組の構想について

(平成29年度4月予定)

背景

- 人口減少と少子高齢化の進展、地域社会の衰退、グローバル化の進展など社会の変化
- 国立大学法人は第3期中期目標期間（平成28～33年度）へ～持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学へ～

基本姿勢

- 山形大学の3つの使命「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」を意識
- 大学改革は学生のために実施
～社会ニーズ、学生ニーズに応じた教育システム改革～
- 20年後の地域社会が必要とする人材を養成
～出口(就職・進学)を意識したカリキュラムと質の保証～
- 第3期中期目標期間の山形大学のビジョン「地域活性化の中核になりつつ、特定の分野で世界ないし全国を牽引する教育研究拠点」を目指して



学部改組構想

- 6学部構成は維持。
人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部、医学部、工学部、農学部
- 学部の学科、コース構成を再編。
人文社会科学部(2学科⇒1学科)、地域教育文化学部(8コース⇒2コース)
理学部(5学科⇒1学科)、工学部(8学科⇒6学科)
- 学部間で学生定員を移動し、新しい学科、コースを設置。
人文社会科学部(グローバル・スタディーズコース)、地域教育文化学部(文化創生コース)、理学部(データサイエンスコース)、工学部(建築・デザイン学科)

研究科改組構想

- 理工学研究科(理学系)及び医学系研究科において専攻を見直す。
※有機材料システム研究科の新設(H28.4)

※内容等は構想中のものであり、今後変更となる場合がありますので、ご注意ください。

山形大学学部改組の構想について

(平成29年度4月予定)

(現 行)

学部	入学定員
人文学部 人間文化学科 法経政策学科	300 100 200
地域教育文化学部 地域教育文化学科 児童教育コース 異文化交流コース 造形芸術コース 音楽芸術コース スポーツ文化コース 食環境デザインコース 生活環境科学コース システム情報学コース	240 80 20 15 20 20 35 25 25
理学部 数理科学科 物理学科 物質生命化学科 生物学科 地球環境学科	185 45 35 45 30 30
医学部	185
工学部 機能高分子工学科 物質化学工学科 バイオ化学工学科 応用生命システム工学科 情報科学科 電気電子工学科 機械システム工学科 システム創成工学科	620 110 75 60 60 75 75 115 50
農学部 食料生命環境学科 安全農産物生産学コース 食農環境マネジメント学コース 食品・応用生命科学コース 植物機能開発学コース 森林科学コース 水土環境科学コース	155
合計	1685

(平成29年4月～)

学部	入学定員
人文社会科学部 人文社会科学科 人間文化コース グローバル・スタディーズコース 総合法律コース 地域公共政策コース 経済・マネジメントコース	290
地域教育文化学部 地域教育文化学科 児童教育コース 文化創生コース	240 - α
理学部 理学科 数学コース 物理学コース 化学コース 生物学コース 地球科学コース データサイエンスコース	210
医学部	185
工学部 高分子・有機材料工学科 化学・バイオ工学科 情報・エレクトロニクス学科 機械システム工学科 建築・デザイン学科 システム創成工学科	650 140 140 150 140 30 50
農学部 食料生命環境学科 安全農産物生産学コース 食農環境マネジメント学コース 食品・応用生命科学コース 植物機能開発学コース 森林科学コース 水土環境科学コース	155 + β
合計	1685程度



※内容等は構想中のものであり、今後変更となる場合がありますので、ご留意ください。

山形大学研究科改組の構想について

(平成29年度4月予定)

(現 行)

研究科	入学定員
理工学研究科(理学系)	53
数理科学専攻(M)	11
物理学専攻(M)	12
物質生命化学専攻(M)	13
生物学専攻(M)	9
地球環境学専攻(M)	8
医学系研究科	69
医学専攻(4年制D)	26
看護学専攻(M)	16
看護学専攻(D)	3
生命環境医科学専攻(M)	15
生命環境医科学専攻(D)	9



(平成29年4月～)

研究科	入学定員
理工学研究科(理学系)	53
理学専攻(M)	
医学系研究科	69
医学専攻(4年制D)	26
看護学専攻(M)	16
看護学専攻(D)	3
先進的医科学専攻(M)	15
先進的医科学専攻(D)	9

Mは博士前期課程、Dは博士後期課程

※内容等は構想中のものであり、今後変更となる場合がありますので、ご注意ください。

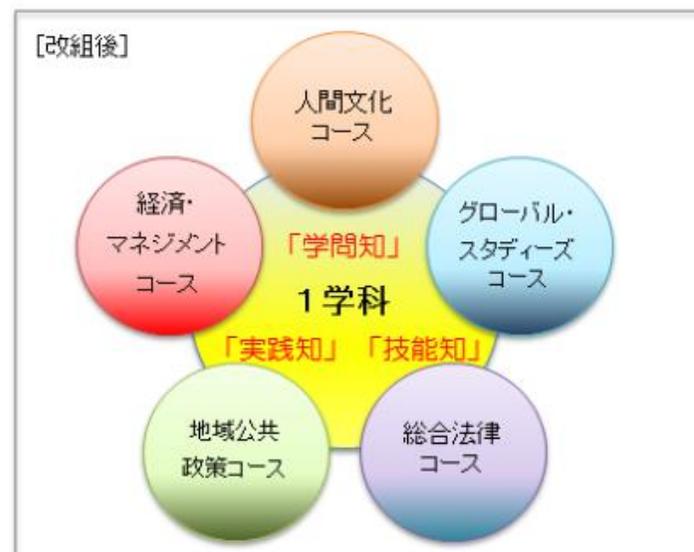
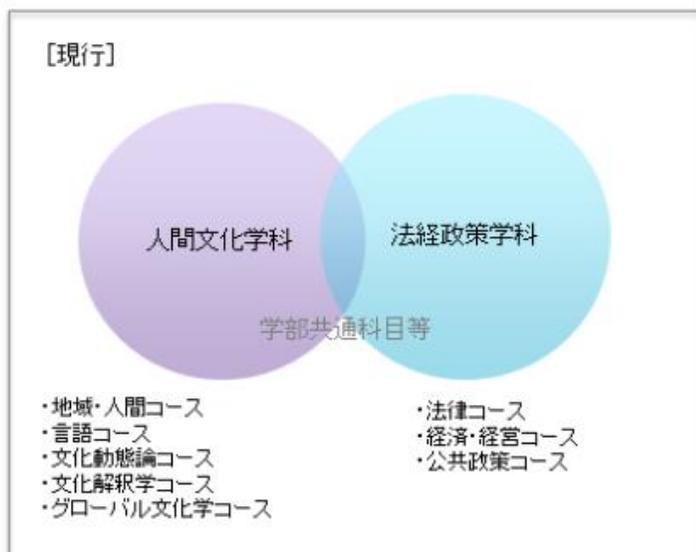
山形大学人文学部が「人文社会科学部」に生まれ変わります！！

人文社会科学部(案)

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性があります。

専門性を重視しながら、文化や社会科学を幅広く学べる学部になります。
専門的なことを深く学ぶと同時に、社会人として活躍するための基礎的な力
(英語、情報・統計・調査能力、実践的課題解決能力)の育成を重視します。

2 学科 8 コース制 → 1 学科 5 コース制



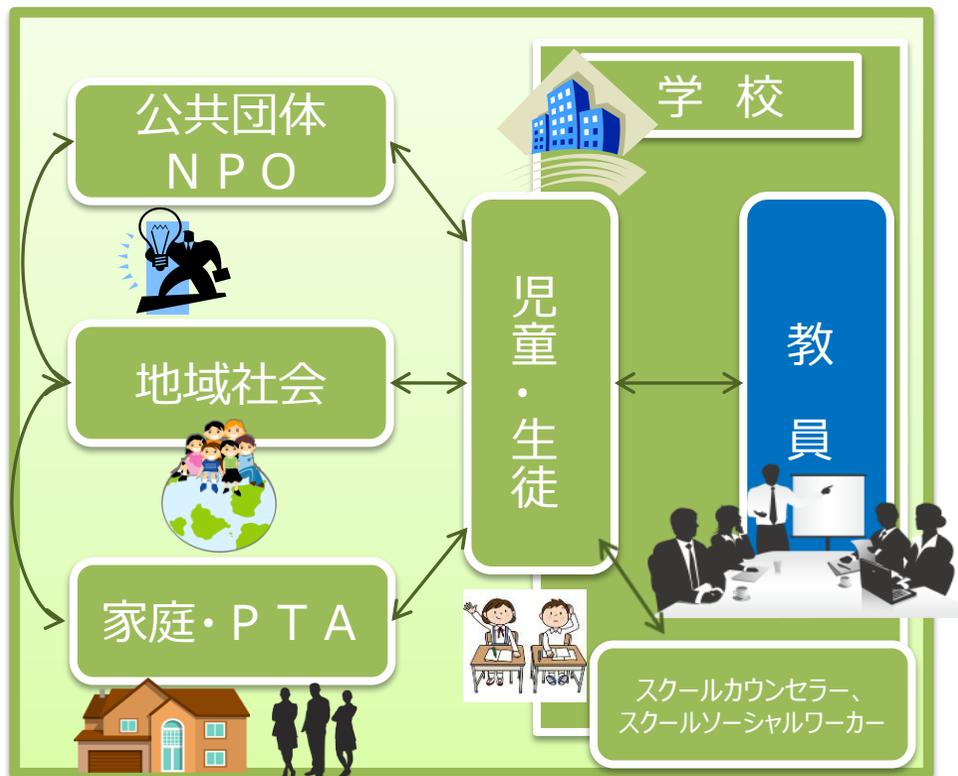
新 地域教育文化学部 (案)

<地域貢献・地域創生型学部>

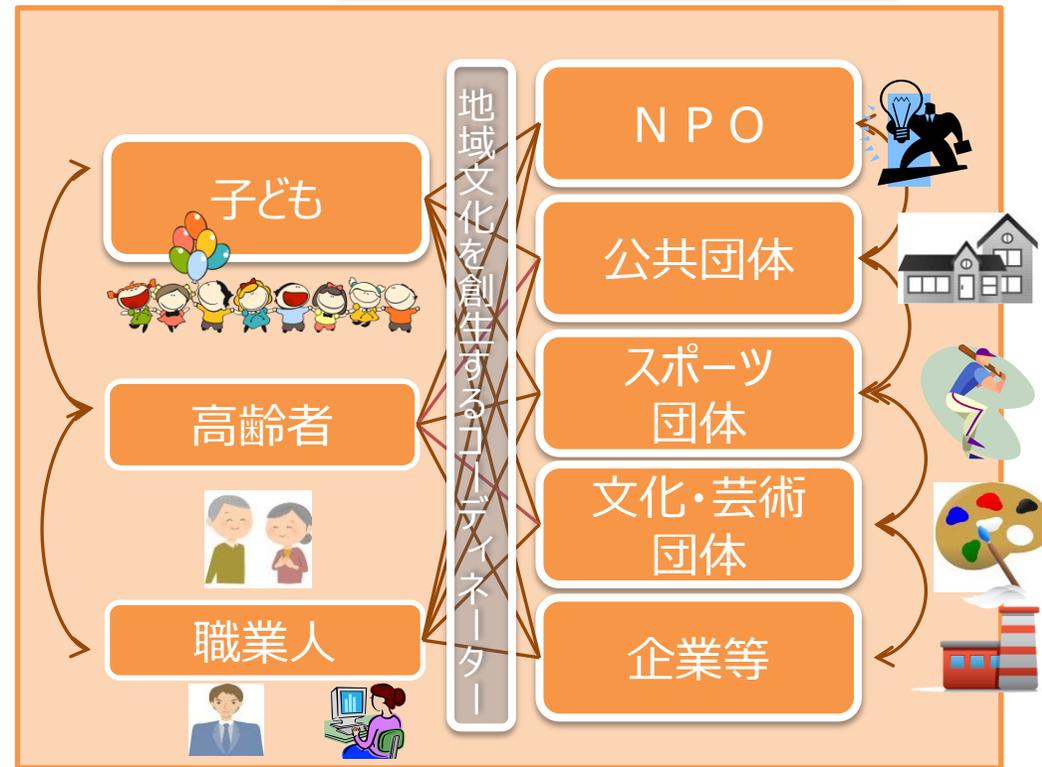
本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性があります。

地域教育 (児童教育コース)

地域文化 (文化創生コース)



地域ぐるみで子どもの育ちを支える
ネットワークを作るファシリテーター
として「チーム学校の一員としての教員」



地域社会が主体的に地域文化を継承し、
創生するためのネットワークを作る
コーディネーターとしての人材

地域の「地域とつながる子どもの育成」・「安全かつ安心な生活」・「文化的に豊かな人生」を支え、
多様な人々を巻き込んで課題解決に取り組む人材の養成

新 理 学 部 (案)

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、
確定情報ではなく、変更の可能性があります。

【新編成】

分野横断による機能強化

理学部 1学科 (210名)
学士 (理学)

理工学研究科博士前期課程
修士 (理学)

理学科 6 コース

数学コース

物理学コース

化学コース

生物学コース

地球科学コース

データサイエンスコース

理学専攻
(53)

新編成の特徴

◆カリキュラム

- ・分野別定員を設けないコース制
- ・キャリアパスを意識した履修プログラム
- ・基礎学力を重視した学部共通教育
- ・基盤力試験、TOEIC等を活用した学部・大学院の6年一貫教育
- ・理工系の研究科に接続できる学部カリキュラム

◆新コース

- ・データ解析からイノベーションを創出する「データサイエンスコース」

◆入試

- ・動機・探究心を重視した選抜方法
- ・地域からの入学者を増やす多様な選抜方法

学修の流れ

学生が目指すゴール (キャリアパス)
に応じたプログラム

学生が選ぶ
学習プラン

スタンダード 理学に関する幅広い知識を有する人材
フロンティア 先導的研究・技術開発に携わる人材
サイエンスコミュニケーター 理数教育・科学文化形成を担う人材

×

4年
6年

一括入試・コース選択は入学後

学生自らが多様な興味、能力に応じて専門分野を選択し、
自らの将来をイメージして学習する教育プログラム

1年	2年	3年	4年	博士前期課程	就職
分野横断型カリキュラム、基礎 数学、基礎理科実験の必修化	学部共通教育	コース専門教育	卒業研究	理工学研究科 または他研究科	総合職・一般職・技術職 (製造・金融・流通・情報通信・出版)
			接続型カリキュラム		技術職・研究職 (製造・環境・情報通信・流通・公共サービス)
			卒業研究		教職大学院 他研究科
			基盤力試験		
			コース選択		

改組の方針

- ① 社会ニーズに対応するため、高度ものづくりの基盤を為す、材料・化学・電子情報・機械系の基盤分野の更なる発展・充実
- ② 本学の特徴である有機系分野の強みを活かす
- ③ 入学者の進路希望と就職先とのマッチング（出口を意識したカリキュラム）
- ④ 学生の多様化に対応するため、学生定員の大きな学科構成にする
- ⑤ IT人材の育成
- ⑥ 工学基盤分野と融合した新しい建築・デザイン分野を導入
- ⑦ 早期の社会と工学の繋がりに係る理解と知識の習得（PBL教育を活用）

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性があります。

工学部 600 ※50

昼間コース

高分子・有機材料工学科 140

合成化学コース

光・電子材料コース

物性工学コース

化学・バイオ工学科 140

応用化学・化学工学コース

バイオ化学工学コース

情報・エレクトロニクス学科 150

情報・知能コース

電気・電子通信コース

機械システム工学科 140

構造・材料・デザインコース

熱流体・エネルギー工学コース

ロボット・バイオニクスコース

建築・デザイン学科 30

フレックスコース

システム創成工学科 ※50

イノベーションコース

エンジニアリングコース

チャレンジコース

大学院理工学研究科（理学系）理学専攻（案）

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性あります。

理学専攻の教育目標

専門分野の深い知識・技能と、幅広い理学の知識を兼ね備え、異なる分野の知識や方法論を統合して新たな理論や技術を生み出す人材を養成する

- ①イノベーションにつながる分野横断的発想力
- ②理系プロフェッショナルの自覚と実践的な研究能力
- ③法令順守、知的財産、情報セキュリティ、安全衛生管理に関する高い意識

【現行】博士前期課程5専攻

数理科学専攻（11）

物理学専攻（12）

物質生命化学専攻（13）

生物学専攻（9）

地球環境学専攻（8）

【新編成】博士前期課程1専攻

理学専攻
入学定員
53名

学部・大学院の
一体的改革

新編成の特徴

- ◆科学・技術の基礎となる理学の学理体系に基づきながら、柔軟な科目編成ができる1専攻制の利点を活かして、複数の分野にまたがる分野横断科目を設ける。これにより、分野間で異なる論理や方法論に対する理解と、各分野の知識を体系的に関連づける思考力・発想力を育成する教育を行う。
- ◆分野を越えた研究組織を編成し、イノベーション創出につながる革新的な理学の基礎研究を推進する。
- ◆情報科学（データサイエンス）分野の教員を新たに加えて、社会的要請が高まっているビッグデータや情報セキュリティの教育を強化する。
- ◆理学専攻の入学定員は、現行の理工学研究科博士前期課程（理学系）と同じ53名とする。
- ◆学部と大学院の一体的改革により、学部と大学院の6年一貫で学修を深める新たなカリキュラムを開設する。

1専攻の相乗効果による研究力強化

1専攻化で形成される分野横断型研究組織（研究クラスター）のメリットを活かして、新たな基礎理論・概念を生み出す革新的研究、先端的な計測・分析・解析技術に基づく創造性豊かな研究を推進する

- 展開例
- ◆数学×物理学×情報科学⇒新たな理論・解析技術
 - ◆化学×物理学×生物学×数学⇒新たな機能性物質の創製
 - ◆物理学×生物学×医学⇒先端的医療技術

大学院医学系研究科先進的医科学専攻（案）

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性があります。

設置の趣旨・必要性

- ・特色の発揮を更に進めるために山形大学医学部の強みである重粒子線治療装置研究開発を中心とした放射線医学研究，ゲノムコホート研究及び創薬研究などを集中的に実施し，①重粒子線の専門家育成②臨床研究に貢献する生物統計学の専門家の育成③トランスレーショナルリサーチを遂行するための多様な人材を育成

先進的医科学専攻の設置（入学定員：博士前期課程15名／博士後期課程9名、専任教員：20名）

【養成する人材像】

低侵襲・個別化を目指した未来のがん医療の最先端研究，脳卒中，心筋梗塞，生活習慣病，認知症等を診断，治療，予防する医療を担う人材

【活躍のイメージ】

- ・重粒子線医学など粒子線治療を推進でき，更に放射線防護学に詳しい専門家として医療機関や研究施設等での活躍
- ・臨床研究，疫学研究などを推進する生物統計学の専門家として，大学，研究施設，製薬関連企業（健康食品や化粧品等の開発を行っている企業や研究機関），行政機関，医療関連機関での研究職として活躍
- ・トランスレーショナルリサーチを遂行できる専門家として大学，研究施設，医薬品企業，医療機器関連企業への就職や，臨床試験管理センター，治験等に携わる専門職での活躍

特色

【教育課程】

- ・重粒子線医学や放射線防護学を専門とする「放射線未来科学」，生化学・分子生物学や遺伝子情報解析学を学ぶ「分子疫学」，創薬科学や生命情報工学を实践する「創薬・システム医科学」の3つのコースを置き，3コースでは連携して教育・研究を実施
- ・臨床医学の素養を育むことを重視し，医学専攻，医学部メディカルサイエンス推進研究所及び医学部がんセンターも活用した教育を実施

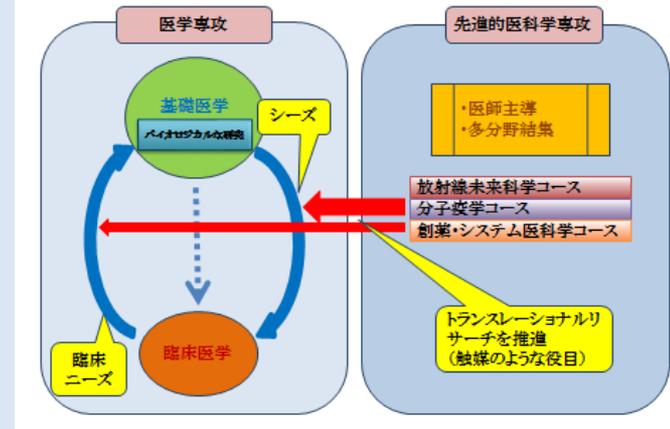
【医学部卒業生にとってトランスレーショナルリサーチなど医学専攻とは異なる面からの教育カリキュラム整備】

- ・医師のキャリアアップや専門教育の教育コースも整備

【理学，工学，農学，人文社会科学分野など医学以外からの学生にも対応した教育カリキュラムを整備】

- ・医科学を基礎から勉強できるカリキュラム
- ・がん，脳卒中，心筋梗塞，生活習慣病，認知症など医学・医療分野の専門家として活躍カリキュラムを整備

先進的医科学専攻の意味



全学的資源再配分・ガバナンス改革

- ・既存の生命環境医科学専攻の内容を発展させて先進的医科学専攻へと改組，設置
- ・医療従事者や医療系学生に加えて，理学，工学，農学，人文社会科学分野や行政機関などへも門戸を開放
- ・理学部や工学部との教育支援体制を構築

平成28年4月19日
山形大学

新地上絵の発見

「舌を伸ばした動物」の地上絵をナスカ台地で発見しました。

「舌を伸ばした動物」の地上絵

平成27年度の現地調査において、「舌を伸ばした動物」の地上絵を発見しました。見つかったのはナスカ台地（ペルー共和国イカ県ナスカ市）の中央部で、地上絵の全長は約30メートルあります。胴部には斑点のような文様があり、胴部から足のように見える突起部が多数伸びているのが特徴です。現実の動物を写実的に描いたのではなく、空想上の動物が描かれたと考えられます。

制作時期

今回発見した地上絵は、地表の小石を面状に取り除いた白い面と、取り除いた小石を積み上げた黒い面によって構成されています。この技法はハチドリの地上絵が描かれたナスカ期以前の、パラカス後期（前400～前200年頃）の地上絵に特徴的です。

地上絵と巡礼路

「舌を伸ばした動物」の地上絵のすぐ近くに、以前、山形大学ナスカ調査団が発見した「斬首の場面」の地上絵があります。両者は同じ技法で描かれている上、なだらかな斜面に描かれているため、人間の目の高さから地上絵の形が識別できます。両地上絵の間に古い道があり、その先に当時の大神殿カワチがあります。このことから、2つの地上絵はカワチ神殿への巡礼路にそって描かれたと考えられます。

展示「人文学部附属ナスカ研究所の成果」

今回の発見を含む展示「人文学部附属ナスカ研究所の成果」を、人文学部1号館1階の市民交流室Agoraで開催します。一般市民の皆様のご来場をお待ちしております。

（お問合せ先）

学術研究院 教授（人文学部担当）

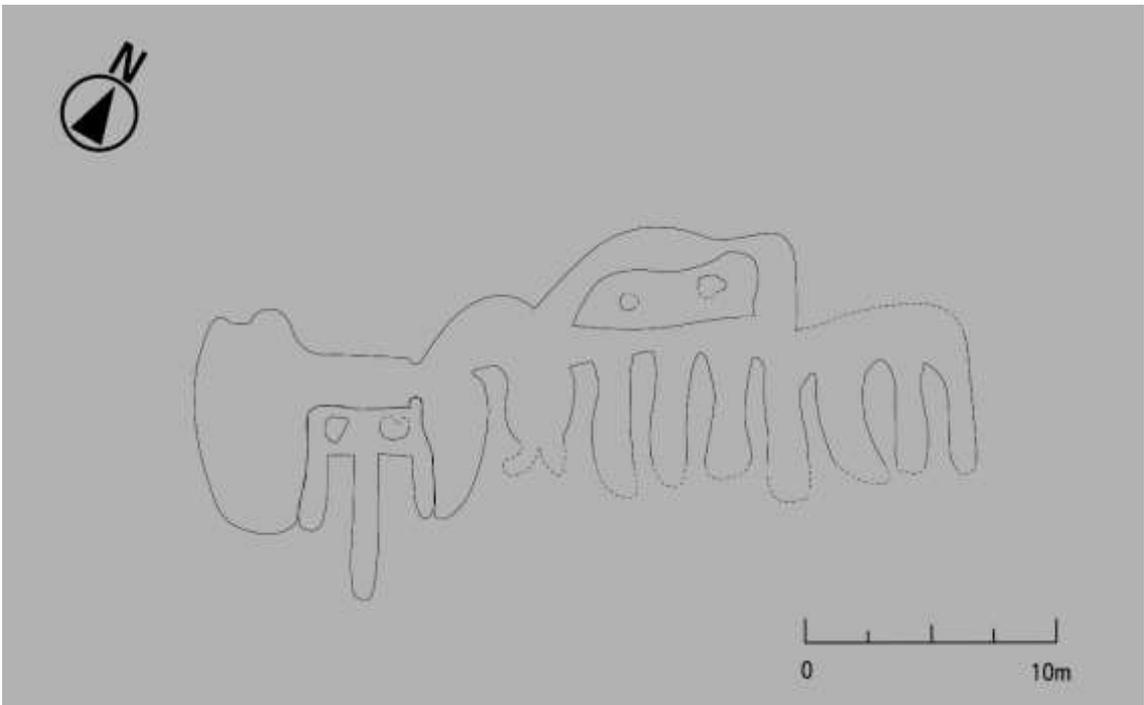
坂井 正人

電話 023-628-4470

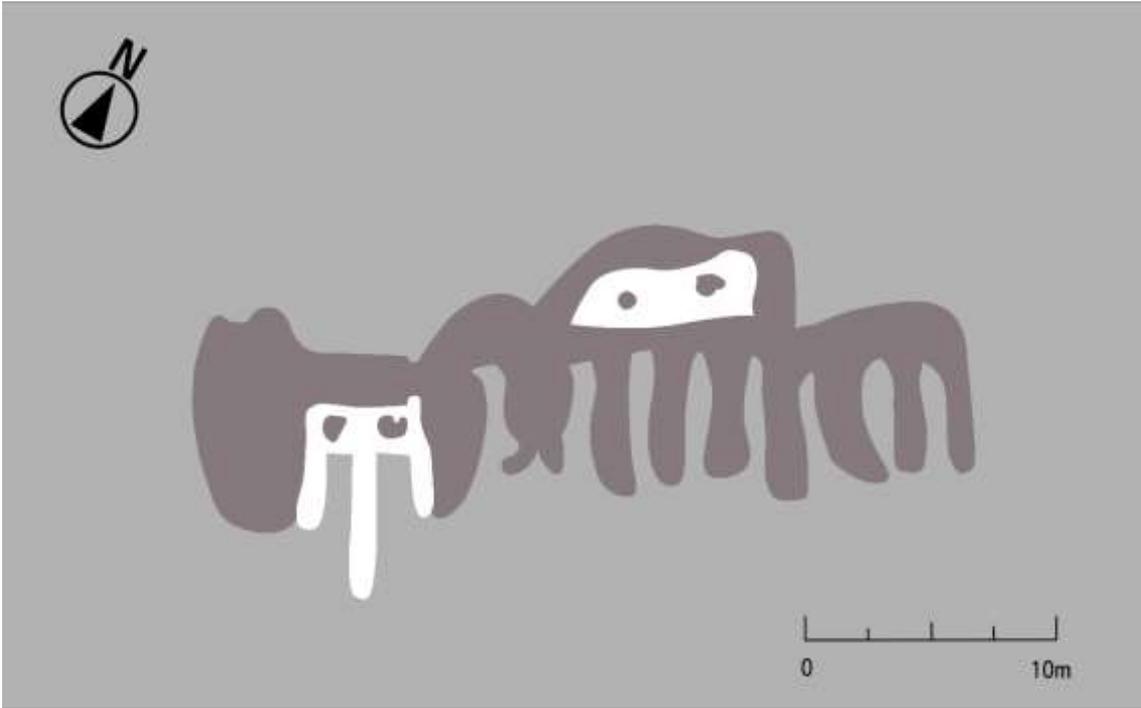
sakai@human.kj.yamagata-u.ac.jp



写真：「舌を伸ばした動物」の地上絵



線画：「舌を伸ばした動物」の地上絵



想像復元図：「舌を伸ばした動物」の地上絵

平成28年4月19日

山形大学

AMSTで真室川町指定有形文化財木造薬師如来坐像の制作年代と修理歴を実証しました。

木製彫刻文化財保存修復研究所（代表：岡田靖氏）との共同研究において、高感度加速器質量分析装置（AMS）を用いて、真室川町指定有形文化財木造薬師如来坐像の年代調査を実施した結果、頭体幹部の一部が平安時代中期の制作であることとともに、破損した古仏を活かしながら江戸時代初期に大規模な修理が行われていたことが判明し、当時の宗教観、修理観の在り方が明らかとなりました。

本像は旧本覚院薬師堂（山形県真室川町砂子沢）の本尊として安置されている木造薬師如来坐像（真室川町指定有形文化財）で、平成27年度に修復処置が行われました。

木造薬師如来坐像の修復に際する観察の結果、体幹部に劣化状態の異なる二種類の木材が使用されていることが確認されました。そのため、本像の修復を担当することとなった木製彫刻文化財保存修復研究所の岡田靖氏によって、本像体幹部材の体幹部左前面材（古い材）と推定される部材と、体幹部主要部材（新しい材）から微量の木材を採取し、以前より共同研究体制を組む山形大学高感度加速器質量分析センターにおいて放射性炭素年代測定を実施しました。

測定の結果、薬師如来坐像の体幹部左前面材（古い材）からは**772年～887年（95.4%）**、体幹部主要部材（新しい材）は**1494年～1602年（74.2%）・1616年～1645年（21.2%）**の暦年代較正測定値が得られました。この測定値を、採取箇所から辺材までの年数や伐採後から制作までの年数を加味して総合的に考察すると、本像の体幹部左前面材（古い材）は**10世紀後半～11世紀頃（平安時代後期頃）**、体幹部主要部材（新しい材）は**江戸時代初期頃**に制作されたと推定されました。この結果は、平成24年度に長坂一郎氏【東北芸術工科大学教授】と岡田氏によって行われた美術史的調査による制作年代の推測と概ね一致するもので、本像の制作年代および江戸時代の修理の実態を、美術史的にも、科学的にも実証する結果を得ることができました。

今回の調査、研究、測定によって、薬師如来坐像は**10世紀後半～11世紀頃**に制作され、その後何らかの理由で著しく破損、朽損し、その後江戸時代初期頃に大規模な修理がなされたことが判明しました。制作当初の平安時代の部材はわずかしが残っていませんが、現状の左腕を内側に伸ばす姿勢は、10世紀後半ごろの仏像様式の特徴を示すため、江戸時代初期の修理時には制作当初の姿勢が判別できる程度の部材が残存しており、修理時にその古式な姿勢を踏襲したものと推定されます。その一方で、当初部材の面部には玉眼などの加工を施しつつ、新補部分を江戸時代初期に流行していた鎌倉時代風の造形で仕上げたものと推測しています。

江戸時代初期においては、新たにすべてを造り直す方が容易であったにもかかわらず、朽損著しい平安時代の古仏を最大限尊重しながら修理した当時の宗教観や修理観、また本像を祀る真室川の人々の信仰の様相をうかがい知ることが出来ます。

木製彫刻文化財修復研究所による今回の修復では、今回の測定で得られた平安時代の古い仏像と江戸時代初期の大規模修理が混在した本像の歴史性意義を尊重した処置が行われました。その修復完了を記念し、真室川真理歴史民俗資料館にて記念展覧会（平成28年4月30日～5月27日）および講演会（4月30日）を行うこととなりました。展覧会や講演会を通じて山形の歴史を多くの方々と共有することで、現代にまで本像を伝承してきた真室川町砂子沢地区の方々の想いを含めて次世代に伝えたいと思います。

なお今回の研究の成果は、学術的にも有意義な成果であるため、文化財保存修復学会第38回大会にて発表されます。



砂子沢薬師堂
木造薬師如来坐像 修復前



砂子沢薬師堂
木造薬師如来坐像 底面
（白丸で囲んだ箇所が古い材）



砂子沢薬師堂
木造薬師如来坐像 修復後

（お問合せ先）

・山形大学高感度加速器質量分析センター長
・学術研究院（理学部担当） 教授
門叶 冬樹（とかない ふゆき）
TEL: 023 (628) 4554

・木製彫刻文化財保存修復研究所 代表
【愛知県名古屋市名東区神丘町2-7-3】
岡田 靖(おかだ やすし)
TEL:052-710-9312

真室川町砂子沢薬師堂

木造薬師如来座像修復記念展

講演会

「修復から見える薬師如来座像
が辿った歴史と地域の記憶」

● 4月30日(土) 午前10時～11時半

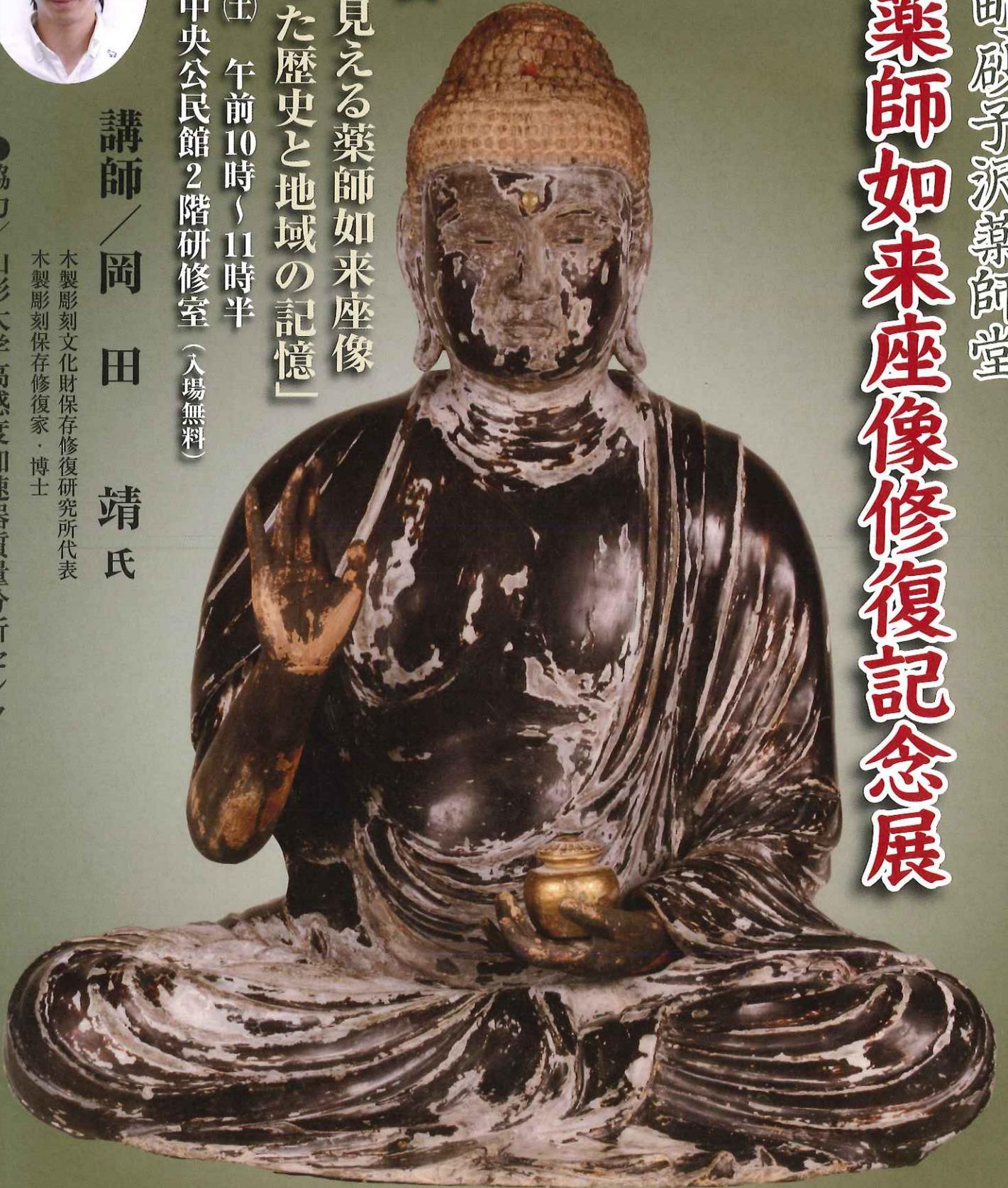
● 真室川町中央公民館2階研修室 (入場無料)



講師／岡田 靖氏

木製彫刻文化財保存修復研究所代表
木製彫刻保存修復家・博士

● 協力／山形大学高感度加速器質量分析センター



- 期 日／平成28年4月30日(土)～5月27日(金) 月曜日休館 9時から16時30分
- 入館料／大人 100円・小中学生 50円
- 場 所／真室川町立歴史民俗資料館

◎お問い合わせ
真室川町教育委員会 0233-62-2305
真室川町立歴史民俗資料館 0233-62-3511

平成28年4月19日
山形大学

山形大学人文学部と㈱モンテディオ山形の連携による 課題解決型学習（PBL）の試行について

山形大学人文学部では、知識習得型学習だけではなく「習得した知識を実践する力」に焦点を当て、株式会社モンテディオ山形と連携して、課題解決型学習（Problem Based Learning）を試行することになりました。

◇課題解決型学習（PBL）試行の背景

山形大学人文学部では、社会的要請に応えるべく、教育改革を計画しております。本取組は、従来の知識習得型学習だけではなく、「習得した知識を如何に活用して成果を産み出すか」という点に注目し、学生自らが能動的に課題解決できる力の育成を目指すものです。山形大学人文学部は本学習の試行を通じて、地域で活躍できる人材育成を行うための準備を進めていきます。

◇モンテディオ山形と連携した学習の概要

【テーマ】大学生がプロデュースする、学生のためのツアーパッケージ企画・実践

【学習の目的】モンテディオ山形の試合は、学生から高い注目を集めてきました。ただその注目度は、様々な要因から必ずしも十分に観客動員へ結び付いてきたわけではありません。今回、山形大学人文学部ではモンテディオ山形の観客動員数を底上げするために必要な大学生の集客をテーマとして、新規・リピーターの顧客として獲得するツアーの企画・実践を学生主体で行います。当学習は地域プロサッカーチームの課題解決に取り組むことで、学生の課題解決力の育成を目的とします。

◇スケジュール、参加人数

当科目は4月下旬に開講し、5月～6月に事前学習と準備、7月のモンテディオ山形のホームゲームにてツアーを実施、7月～8月に取りまとめ及び提言等の実施を予定しています。なお履修学生は8名程度、指導教員は2名程度の予定です。

（お問合せ先）

学術研究院（人文学部担当）准教授

山本 匡毅（やまもと まさき）

電話：023-628-4794

Mail：yamanasu@human.kj.yamagata-u.ac.jp

平成28年4月19日
山形大学

農学部が鶴岡市と共同で地域定住農業者育成プロジェクト事業を開始

農学部は鶴岡市と共同で、鶴岡市・庄内地域等で農業での定住を希望する学生、I J Uターンで農業を開始したい人、農業は始めたがまだ不安を抱える青年農業者を総合的にサポートし、この人たちが地域に定住し農業で自立できるようにするための事業を、関係機関・専門家の参画を得て開始します。

1. 背景

山形県の農業就業人口の平均年齢は平成27年65.8歳と農業者の高齢化が著しい状況にあり、年齢構成を見ると45歳未満で年齢が下がれば下がるほど主に農業をする人が少ない状況です。これに対して、青年就農給付金、新規就農者支援事業などが活発に行われていますが、依然として若手農業者は著しく少なく、農業者の絶対的不足という事態が予想されます。一方で、新・農業人フェアの活況や田園回帰現象が注目され、I J Uターンによる就農が注目を集めており、また農学部での域外出身学生の鶴岡、庄内地域への思いの強さがあります。入口を多様かつ広く、そして成長をサポートすることが求められます。

2. 具体的な取組

・組織

鶴岡市、農学部が発起人となって「地域定住農業者育成コンソーシアム」を立ち上げ、農業委員会、JA、商工団体、金融機関及び農学部OBの専門家から参画頂くことになりました。コンソーシアムのもとに「青年就農サポーターズクラブ」を組織し、多様な相談に対応できるようにします（コンソーシアム会員、青年就農サポーターは今後さらに参加をお願いしていきます）。「地域定住農業者育成コンソーシアム」の設立総会は4月20日に農学部で行います。

・28年度事業

よろず相談（随時）、専門家派遣（随時）、食と農のビジネス塾（8～2月、履修証明プログラム）、学生向けセミナー、青年農業者の集い、情報発信

・28年度活動目標

よろず相談（訪問を含め約100件）、専門家派遣（約50件）、食と農のビジネス塾（約30名）、学生向けセミナー、青年農業者の集い、情報発信

3. 地域定住農業者育成コンソーシアム設立総会

日時 平成28年4月20日（水）15時

場所 山形大学農学部会議室（鶴岡市若葉町1-23）

（お問合せ先）

学術研究院 教授（農学部担当） 小沢 互

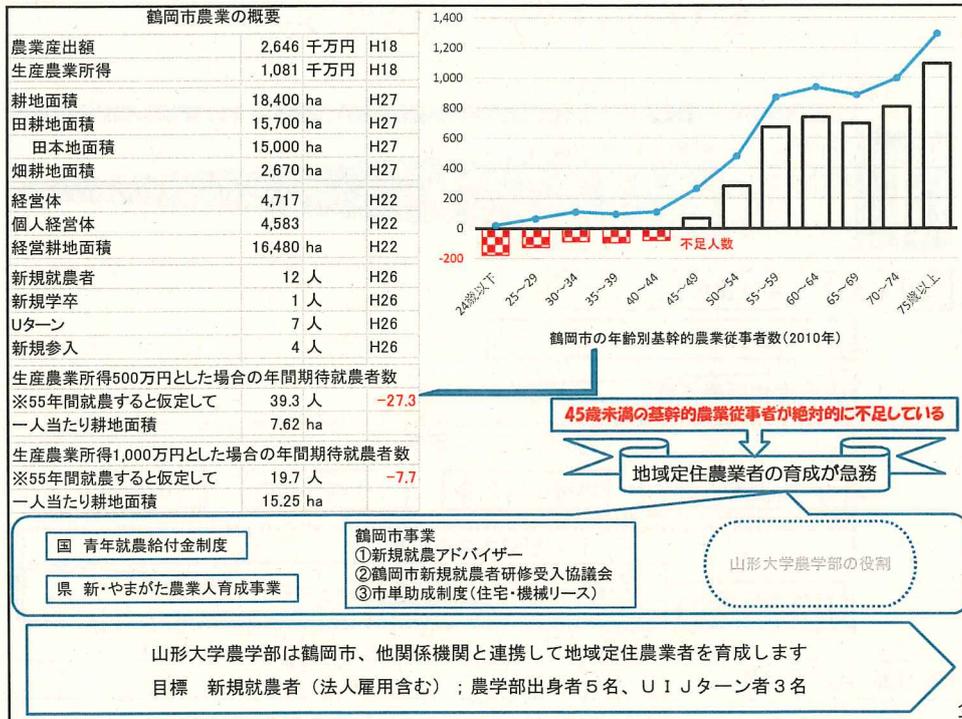
電話 0235-28-2944

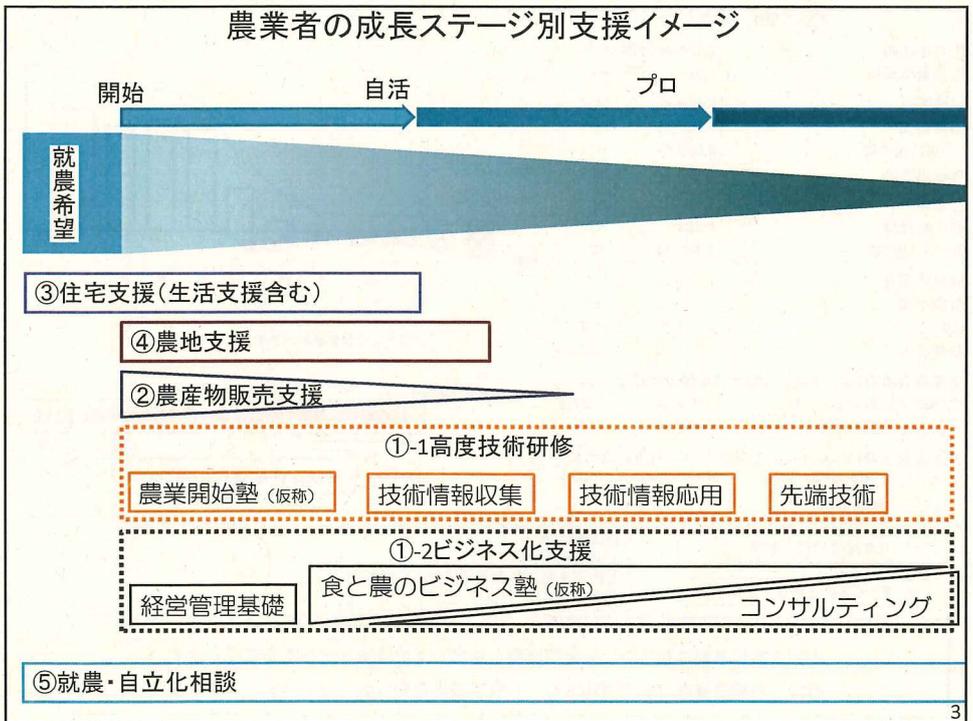
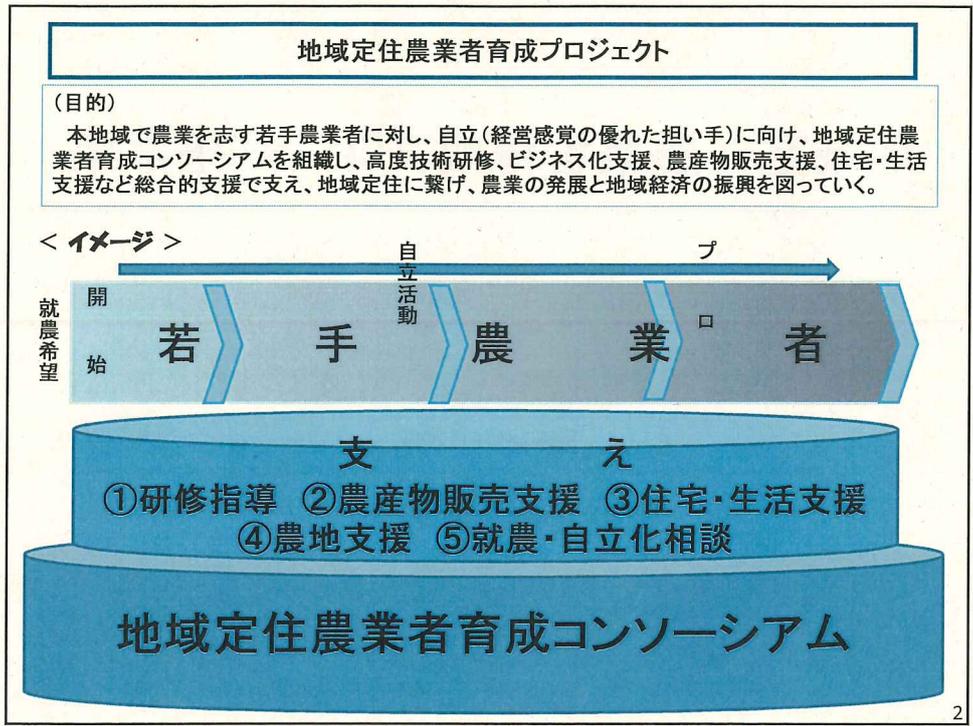
E-mail: wo1995@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

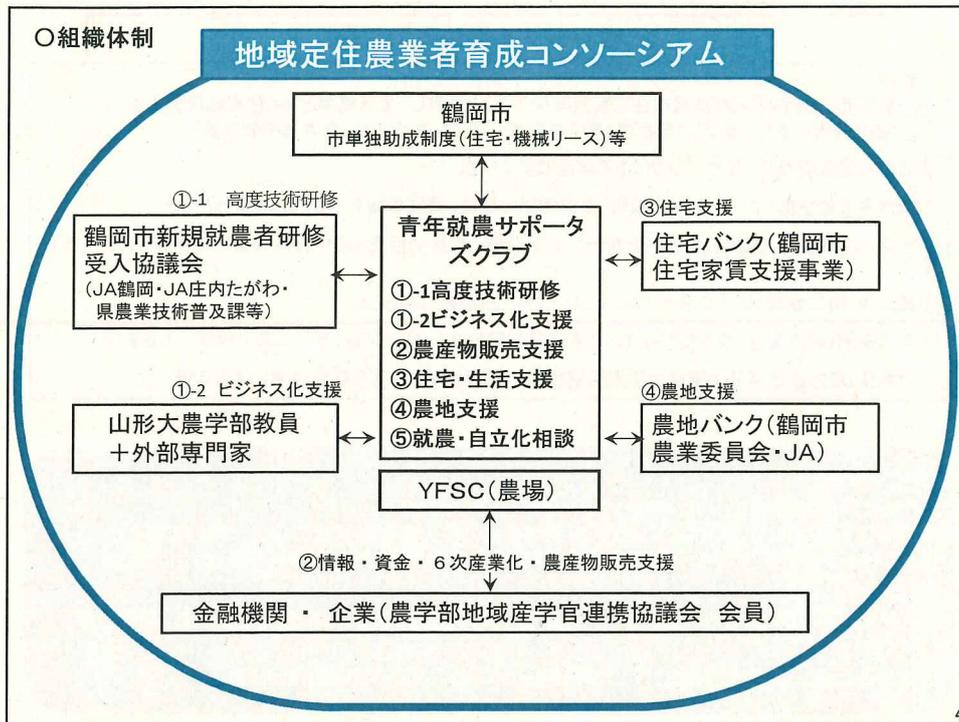
地域定住農業者育成プロジェクト事業

平成28年4月20日

鶴岡市
山形大学農学部







地域定住農業者育成コンソーシアムの役割

①研修指導

-1 高度技術研修
 栽培技術、農作業、作物選択等；鶴岡市新規就農者研修受入協議会等と連携し栽培技術、農作業等高度技術に関する研修を行うとともに、県農業普及指導の協力を得て科学的経営計画手法による作物選択を学ぶ。
 ア. 農業開始塾(仮称)：履修証明プログラム
 イ. 技術情報収集、技術情報応用、先端技術；教員及び学部人材による短期研修

-2 ビジネス化支援
 やまがた6次産業ビジネス・スクール運営で培ったビジネスノウハウ取得のためのプログラムをベースに、農業経営経済系教員と外部専門家の協力を得て、経営管理、外部環境把握、外部組織連携等で構成する経営管理を学ぶとともに、ビジネス戦略プランの構築を行う。
 ア. 食と農のビジネス塾：履修証明プログラム(食プロ・レベル3)
 イ. コンサルティング：農業会議専門家派遣等

②農産物販売支援
 農学部地域産学官連携協議会の企業会員を中心に、ビジネス化可能な農産物を把握し、対象企業への生産物提供を斡旋・代行し、販売に関するノウハウを学ぶ。

③住宅・生活支援
 住宅バンク(鶴岡市住宅家賃支援事業)と連携し、生活基盤となる住宅確保を支援する。

④農地支援
 農地バンク(鶴岡市農業委員会)と連携し、生産基盤となる農地確保を支援する。

⑤就農・自立化相談
 多様な経験を有する卒業生を中心とした域内サポーターと農学部教員と連携し、就農希望段階からプロとして自立化する直前までの中長期にわたる多様な相談に応え、各種障害の克服を支援する。

5

コンソーシアム構成員の役割

①行政

- 1 鶴岡市 住宅バンク(鶴岡市住宅家賃支援事業)と連携し、生活基盤となる住宅確保を支援
- 2 県庄内総合支庁 新規就農相談(農業振興課)、経営・技術相談(農業技術普及課)

②鶴岡市農業委員会 農地バンクによる農地関係を支援

③山形大学農学部 講師、先端的技術・経営情報の提供、運営の場の提供による支援

④農業協同組合(JA鶴岡・JA庄内たがわ) 就農相談、生産物販売相談、農業機械取得相談などによる支援

⑤商工会・商工会議所 生産物販売相談、ビジネス化相談による支援

⑥金融機関(荘内銀行・鶴岡信用金庫・日本政策金融公庫) 資金調達、ビジネス化相談による支援

※企業(山形大学農学部地域産官学連携協議会) 生産物購入、需要情報提供による支援

【社会人対象】

よろず相談(訪問を含む); H28年100件、H29年150件、H30年~200件
 専門家派遣; H28年50件、H29年100件、H30年~150件 青年農業者の集い; 年数回開催
 食と農のビジネス塾; H28年~受講者30名/年 農業開始塾(仮称); H29年~受講者5名程度

【学生対象】

農家体験実習(1年生); 約40名/年 学生向け鶴岡の産業紹介講座; 組織、農企業、関係企業

【共通】

情報発信; 1回/週(交流も含む) 青年就農サポーターズクラブ研修; 3回/年

6

28年度計画	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
①-2ア. 食と農のビジネス塾	開設準備	募集	準備	塾								
①-1イ. 技術情報収集・応用 ①-2イ. コンサルティング ③住宅・生活支援 ④農地支援 ⑤就農・自立化相談	情報収集と相談 青年農業者の集い(非定期、数回開催)											
①-1ア. 農業開始塾(仮称)	内容の検討								開設準備			
①-1イ. 先端技術研修	食料自給圏(スマート・テロワール)形成講座と連携 農家体験実習、学生向け講座(鶴岡市の産業、非定期)											
②農産物販売支援	内容の検討											
人員配置	短時間職員(4時間)	短時間職員(4時間)×2名で終日対応 塾対応に学生アルバイト(受付、ビデオ撮影)										
専用携帯電話、専用メールアドレスで相談に対応												

7

5カ年計画	H28	H29	H30	H31	H32
①-2ア. 食と農のビジネス塾	実施	実施	実施	実施	実施
①-1イ. 技術情報収集・応用 ①-2イ. コンサルティング ③住宅・生活支援 ④農地支援 ⑤就農・自立化相談	<p>情報収集と相談 青年農業者の集い(月1回開催)</p>				
①-1ア. 農業開始塾(仮称)	準備	実施	実施	実施	実施
①-1イ. 先端技術研修	<p>食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座と連携 農家体験実習、学生向け講座(鶴岡市の産業、非定期)</p>				
②農産物販売支援	準備	準備	実施	実施	実施
対象地域	鶴岡市主体で実験		対象地域を拡大する		
経費負担	鶴岡市と大学で負担		自主財源による自立化		

8

平成28年4月19日
山形大学

1. 小学生を対象に新企画「めざせ！スライムマイスターJr.」を実施します。

山形大学 SCITA センターが運営する「やまがた『科学の花咲く』プロジェクト」では、これまで地域や家庭で科学の不思議や面白さ、科学技術を教える講師や補助者になっていただくためスライムマイスターを養成してきましたが、今年度から「めざせ！スライムマイスターJr.」という主に小学生を対象とした新企画にも取り組みます。

※詳細は別紙「通知資料」をご覧ください。

2. 幕田寿典准教授の文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞が決定

本学幕田寿典准教授は、「超音波による微細気泡生成技術に関する基礎および応用研究」の功績により、平成28年度文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞が決定しました。この表彰は、「科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする（文科省HPより）」趣旨で贈られるものです。なお、授賞式は4月20日（水）に文部科学省講堂にて行われる予定です。

※詳細は別紙「通知資料」をご覧ください。

3. 公開講座「小説を書こう」受講者を募集します

日 程：平成28年6月1日（水）～28年8月3日（水）

毎週水曜全10回、各回18:00～19:30

会 場：山形大学小白川キャンパス 基盤教育1号館

受 講 料：一般 6,000円／大学生・高校生 2,000円（10回分）

受講資格：高校生以上であればどなたでも受講できます。

※詳細は別紙「チラシ」をご覧ください

4. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

「大学コンソーシアムやまがた」では、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話ししていただく「やまがた夜話」を開催しています。

5月は、「『旅の人』が見た山形 やまがたゆかりの人びと—近代編2—」をテーマに4回開催し、山形を旅人として訪れた4人を取り上げ、山形の魅力を考えるヒントを探ります。基盤教育担当の山本陽史教授が解説します。

※詳細は別紙「チラシ」をご覧ください

平成28年4月19日
山形大学

小学生を対象に新企画 「めざせ！スライムマイスターJr.」

山形大学SCITAセンターが運営する「やまがた『科学の花咲く』プロジェクト」では、これまで地域や家庭で科学の不思議や面白さ、科学技術を教える講師や補助者になっていただくためスライムマイスターを養成してきましたが、今年度から「めざせ！スライムマイスターJr.」という主に小学生を対象とした新企画にも取り組みます。

○背景：

子ども達に大人気のスライムは、伸びたり膨らんだりする不思議な物体で、スライムマイスターによる実験教室はいつも行列ができるほどです。より多くの子ども達に科学(化学)の面白さを知ってほしいとの思いから、これまで教室では比較的短時間で簡単に楽しめる実験しか行っていませんでした。

そこで、「繰り返し参加してくれている子ども達にもっと深く学んでもらおう」「もっと違うスライム実験を楽しんでもらおう」と新しく「めざせ！スライムマイスターJr.」を企画しました。

○概要：

山形市内で開催するスライム実験教室に3回以上参加した小学生を「スライムマイスターJr. 特別教室」に招待します。特別教室は山形大学SCITAセンターで、12月17日(土)に開催を予定しており、スライムマイスターがスライムの性質を活かしたいろいろな遊びや実験をじっくり指導します。また、特別教室に参加した子ども達には、「スライムマイスターJr.」証明書を発行します。

なお、山形市内で6回開催予定の「スライム実験教室」への参加は、個別に渡すカード(A5版)に記録します。それによって、教室に参加する子どもが初めてなのか、経験者なのかをマイスターが把握できるため、サイエンスコミュニケーションの促進も期待されます。

○今年度の実施予定

- ①4月24日(日) スライム実験教室「のびーるスライム」「スライム時計」(山形県産業科学館)
 - ②6月5日(日) スライム実験教室「のびーるスライム」「光るスライム」(山形県産業科学館)
 - ③8月6日(土) 「青少年のための科学の祭典」にて「のびーるスライム」(霞城セントラル)
 - ④10月23日(日)スライム実験教室「のびーるスライム」「風船スライム」(山形県産業科学館)
 - ⑤11月3日(祝) 「文化の日:科学体験教室」にて「のびーるスライム」(山形県立博物館)
 - ⑥12月4日(日) スライム実験教室「のびーるスライム」「スライム時計」(山形県産業科学館)
- 12月17日(土)予定「スライムマイスターJr.特別教室」**

◆スライムマイスターとは

スライムに関する化学の知識と小さな子供たちへの指導方法を学び、スライムの楽しみ方をみんなに教えてくれるのがスライムマイスターです。やまがた『科学の花咲く』プロジェクトでは、養成講座を実施しており、認定したスライムマイスターが地域のイベントやショッピングモールでボランティアとして活動しています。「スライムマイスターJr.」の指導もスライムマイスターが行います。

(お問合せ先)

学術研究院 教授 栗山 恭直

電話023-628-4506

めざせ!

なまえ

のびたり、ふくらんだり、光ったり・・・不思議な物体、スライムを知ってスライムマイスターJr. になろう!

スライムマイスターJr.



平成28年度スライムマイスターJr. になるためのイベント

予定

月日	イベント	会場	スタンプ
4月24日(日) 10:30~14:30	スライム実験教室① 「のびーるスライム」 「スライム時計」	山形県産業科学館 4F 発明工房	
6月5日(日) 10:30~14:30	スライム実験教室② 「のびーるスライム」 「光るスライム」	山形県産業科学館 4F 発明工房	
8月6日(土) 10:00~16:00	2016 青少年のための科学の祭典 in 山形 スライム実験教室③ 「のびーるスライム」	霞城セントラル	
10月23日(日) 10:30~14:30	スライム実験教室④ 「のびーるスライム」 「風船スライム」	山形県産業科学館 4F 発明工房	
11月3日(祝) 10:00~15:30	文化の日: 科学体験教室 スライム実験教室⑤ 「のびーるスライム」	山形県立博物館	
12月4日(日) 10:30~14:30	スライム実験教室⑥ 「のびーるスライム」 「スライム時計」	山形県産業科学館 4F 発明工房	

※但し、12:30~13:00 はお昼休憩を予定しております。

★スライムマイスターJr.になるには・・・

スライム教室に
3回以上参加

※スライム実験教室の日程は、変更する場合がありますので、やまがた「科学の花咲く」プロジェクトホームページでご確認ください。

氏名・住所などを
記入して提出

(HP <http://mirai.scita.jp/~chiiki/>)
※スタンプカードは、大切に保管してください。
※3回以上参加したら、スライムマイスターにスタンプカードを見せて、「スライムマイスターJr. 特別教室参加申込み用紙」を受け取り、必要事項を記入して、スライムマイスターに手渡してください。

「スライムマイスター
Jr.

**スライムマイスターJr.
誕生!**

後日小学生以上の方を対象に開催する「スライムマイスターJr. 特別教室」(12月17日予定)への招待状を郵送させていただきます。

[スライムマイスターJr.] 証明書がもらえるよ♪



<お問合せ先・送付先>

やまがた「科学の花咲く」プロジェクト 山形大学 SCITA センター

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目 4-12

TEL/FAX 023-628-4517(平日/10:00~17:00)

E-mail kagaku-scita@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

HP <http://mirai.scita.jp/~chiiki/>

平成 28 年 4 月 19 日
山 形 大 学

幕田准教授の文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞が決定

本学幕田寿典准教授は、「超音波による微細気泡生成技術に関する基礎および応用研究」の功績により、平成 28 年度文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞が決定しました。この表彰は、「科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする（文科省HPより）」趣旨で贈られるものです。なお、授賞式は4月20日（水）に文部科学省講堂にて行われる予定です。

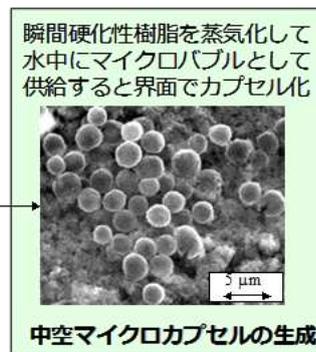
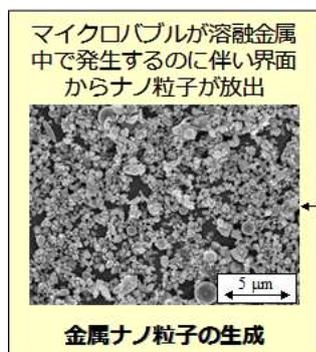
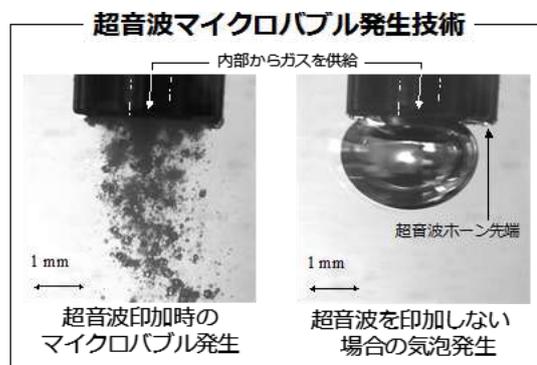
◆受賞対象の業績

「超音波による微細気泡生成技術に関する基礎および応用研究」について

100ミクロン（0.1mm）以下の微細気泡（マイクロバブル）は、良好な溶解特性を有するため、農業・水産業などを中心とした応用展開が進んでおり、近年では先進医療や化学プロセスへ適用も試みられています。その一方でこれまでの生成法には、大きさの均一性の確保や水以外の液体での気泡発生が難しいという課題が残されていました。

これに対して幕田准教授は超音波の振動伝達体であるホーンの内部に気体供給流路を設け、液体中のホーン先端から気体を放出しながら超音波振動を同時に付与することで、液体中の気液界面を不安定化させ、10ミクロン（0.01mm）前後の気泡を大量に発生させることに成功しました。

この技術は、現在一般的な微小気泡生成技術である高速噴流・高速旋回流を用いて気相を巻き込んで気泡を発生させる手法とは異なり、液体や気体の種類を問わずに高反応性ガスや熔融金属などにも微細な気泡を発生させることが可能であるため、右の図に示すシアノアクリレート蒸気を用いた中空カプセルの生成や、熔融金属相からの金属ナノ粒子の生成をはじめとして、新しい材料の創成やプロセスの効果・効率向上に貢献できると期待されています。



（お問合せ先）

学術研究院 准教授（流体工学・熱工学）幕田 寿典

電話：0238（26）3258

E-mail: makuta@yz.yamagata-u.ac.jp

超音波によるマイクロバブル生成技術

山形大学大学院理工学研究科 准教授 幕田 寿典

技術概要

マイクロバブルとは: 直径100 μ m(1/10mm)以下の微小な気泡/

マイクロバブルの特性

- ① 浮上速度が遅い
- ② 気液界面積が大きい
- ③ 自己加圧効果
- ④ 固有の音響特性



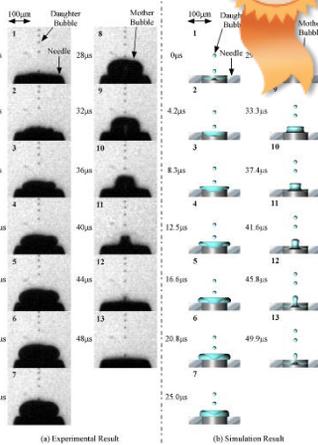
(左) マイクロバブル有 (右) マイクロバブル無

超音波と針を利用したマイクロバブル生成

液中の針先から気体を放出しながら超音波を印加することでマイクロバブルが発生



実験・計算条件
周波数: 18 kHz
圧力振幅: 10 kPa
針内径: 0.1mm



10 μ m(1/100mm)以下で均一なマイクロバブルが発生可能

気泡発生量が極めて少ない

従来のマイクロバブルの発生方法

細管から発生させる方法:

細管に気泡を送り込み気泡発生させる

加圧溶解法:

溶液をガスで加圧を行い過飽和を利用して気泡を発生

高速旋回法:

ガスを高速旋回によって崩壊させガスを微細化

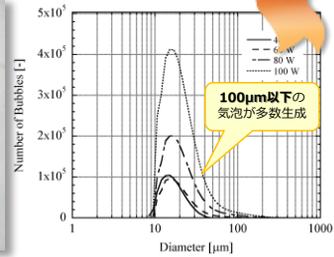
中空超音波ホーンを用いたマイクロバブル発生方法



超音波振動子

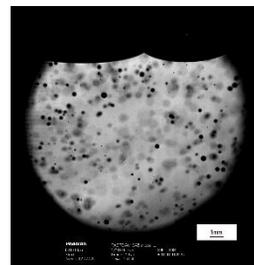
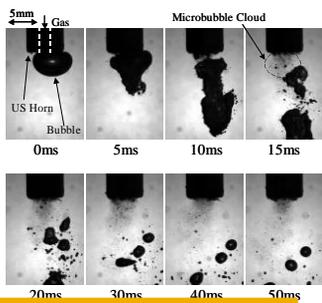


中空超音波ホーン



気体を供給する管を超音波振動体(超音波ホーン)とすることで多量のマイクロバブル化が可能に!

超音波を用いたマイクロバブル発生状態



シリコンオイル中(水の100倍の粘度)でのマイクロバブル発生

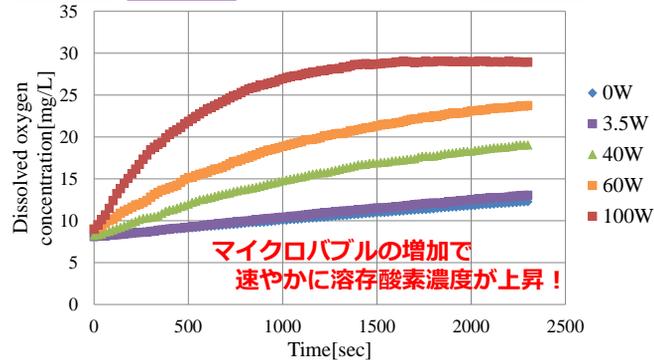
超音波マイクロバブルの概要

1. 大気泡が中空超音波ホーンの前端に形成
2. 超音波印加と同時に付着大気泡は下方へ放出
3. マイクロバブルクラウドが安定的にホーン近傍に生成

超音波マイクロバブルの特徴

- ・低浮力,
- ・安定な界面
- ・千分の秒単位での発生
- ・高粘度環境での使用可能

酸素供給への適用事例



本技術の優位性

- ・100 μ m以下の気泡を多量に発生可能
- ・水以外の液体中(有機溶媒・融融体など)でも発生可能
- ・超音波&バブル併用プロセスの高効率・高機能化

まとめ

中空超音波ホーンを用いた発生装置を使用すると様々な流体に小さく均一なマイクロバブルを大量に発生可能!

今後の研究の方向性

- ・マイクロバブル化流量の増加
- ・発生気泡径の制御
- ・非水系でのマイクロバブル適用検討

知財

幕田寿典・中尾孝明, "微小気泡発生装置および発生法", 特許5839771号

[※ JSME: 日本機械学会, SCEJ: 化学工学会]

超音波とマイクロバブルの組み合わせ 相乗効果でさまざまな応用！！



食

“食”環境の構築へ貢献

- 植物工場用殺菌
- 養殖における生育促進

医療



“医療”環境構築へ貢献

- 次世代超音波造影剤
- 超音波利用DDS担体

超音波マイクロバブル発生装置



安全

“安全”環境構築へ貢献

- 汚染物質の音響分解
- 自己修復材料用微粒子

超音波振動子



中空超音波ホーン

SCEJ
フロンティア賞
2014

特徴・効果

- 気体の溶解促進
- 超音波洗浄効果
- 音響化学反応の効率化
- オゾンの反応性増強
- 新材料（カプセルや微粒子）創成

福祉



“福祉”環境構築へ貢献

- 高機能バブルバス

超音波マイクロバブルの応用研究事例

【オゾンマイクロバブルによる殺菌】

上記技術によるオゾンマイクロバブルによるオゾン殺菌と超音波による物理殺菌の相乗効果によって効果的な殺菌が可能

[関連論文] N. Syukuya, T. Makuta, J. Jpn. Soc. Exp. Mech, Vol. 11, pp.116-121(2011).

JSEM
技術賞
2015

【中空マイクロカプセルの生成】

瞬間的に微小気泡を発生できる上記技術を利用して瞬間接着剤蒸気をマイクロバブル化し中空マイクロカプセルを生成

[関連論文] T. Makuta, Y. Tamakawa, J. Endo, Materials Letters, 65(23), pp.3415-3417(2011).

JSEM
技術賞
2012

【ソノケミストリーへの応用】

上記技術による微小気泡と強力な超音波によって気泡内部に発生する高温高圧場を利用して化学物質を分解

[関連論文] T. Makuta, Y. Aizawa, R. Suzuki, Ultrasonics Sonochemistry, 20, pp.997-1001(2013).

JSEM
技術賞
2013

【金属ナノ粒子の生成】

上記技術を利用して溶融金属中に発生させた気泡に超音波を印加し局所的なジェットを発生させて金属粒子を生成

[関連論文] T. Makuta, M. Sakaguchi, H. Kusama, Materials Letters, 77(15), pp.110-112(2012).

問い合わせ先:

山形大学 大学院理工学研究科機械システム工学専攻 准教授 幕田 寿典

Tel/Fax: 0238-26-3258, E-mail: makuta@yz.yamagata-u.ac.jp

[※SCEJ: 化学工学会, JSEM: 日本実験力学会]

本装置はライセンスした
企業様より購入可能です

平成28年度山形大学公開講座
「小説を書こう！」
 受講者を募集します



(講座の風景)

山形大学では平成26年度、27年度に引き続いて公開講座「小説を書こう！」を開講します。今年度は前期の平日夜に設定し、一般市民（どなたでも参加できます）にも学生（山大以外の学生・高校生も参加できます）にも参加しやすい時間帯としました。受講される方は自作未発表の小説を提出していただき、合評と直木賞作家の高橋義夫さんのアドバイスを受けることができます。山形大学山本陽史教授がサポートします。プロを目指す方も、趣味として小説を書き続けたい方も奮ってご参加下さい。

日 程：平成28年6月1日（水）～28年8月3日（水）

毎週水曜全10回、各回18:00～19:30

会 場：山形大学小白川キャンパス 基盤教育1号館

受講料：一般 6,000円／大学生・高校生 2,000円（10回分）

※初回（6/1）にお支払いください。

定 員：30名（申込順に受け付けます）

受 付：4月25日（月）～定員に達するまで

申込方法：下記申込票にご記入の上、郵送又はFAXにてお送り下さい。電子メールをご利用の方は、同じ情報をメールにてお送り下さい。先着順に受け付け、受講票をお送りします。

お問合せ・お申込：山形大学小白川キャンパス事務部総務課
 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL：023-628-4492 FAX：023-628-4125

電子メール：kj-soukatu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

講師プロ
 フィール
 ：1945年
 千葉県生
 まれ。早
 稲田大学
 文学部フ
 ランス文
 学科卒
 業。



出版社、広告企画会社を
 経て作家。
 1991年『狼奉行』で直木
 賞受賞。近作に「最上義光」
 （山形新聞連載）。

申込票

山形大学公開講座「小説を書こう！」の受講を申し込みます。

お名前(振り仮名を付してください)：	区分(どちらかに○を)： 一般 学生・生徒
ご住所：〒	
電話番号：	ファックス(任意)：
電子メールアドレス(任意)：	

やまがた夜話

「旅の人」が見た山形
やまがたゆかりの人びとー近代編2ー

山形(または出羽国)を旅人として訪れ、風土の本質を見抜いて去った4人の「旅の人」(外から来て住みついた人という意味もあります。)を取り上げ、山形の魅力を考えるヒントを探ります。

平成28年

5月11日(水) 芭蕉の足跡を慕ってー正岡子規
18:30～19:30

5月18日(水) エデンの園とアルカディアーイザベラ・バード
18:30～19:30

5月26日(木) 都と鄙(ひな)のかたちー司馬遼太郎
18:30～19:30

5月30日(月) もう一つの日本への旅
ーエドウィン・O・ライシャワー元駐日大使
18:30～19:30

講師 山本 陽史 氏

山形大学学術研究院教授(基盤教育担当)



(写真:山寺芭蕉記念館 学芸員相原一士さん撮影)

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民

お申し込み

電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax, 郵送、メール等でお
申し込みください。

定員:50名

入場無料

主催

大学コンソーシアムやまがた



大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
Tel:023-628-4842 FAX:023-628-4820
E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp





FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成28年 5月11日(水) 講師: 山本 陽史 氏 <input type="checkbox"/> 平成28年 5月18日(水) 講師: 山本 陽史 氏 <input type="checkbox"/> 平成28年 5月26日(木) 講師: 山本 陽史 氏 <input type="checkbox"/> 平成28年 5月30日(月) 講師: 山本 陽史 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp